

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月17日

協議会名： 芦別市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
空知交通株式会社	本町循環線 ① 芦別駅前～あけぼの団地～芦別駅前(①コース) ② 芦別駅前～市立病院～芦別駅前(②コース) 【車両減価償却費等国庫補助】	令和元年12月1日から供用開始した芦別駅前広場整備事業により、地域公共交通のハブ化が図られ、北海道中央バスが運行する地域間幹線系統の「滝芦線」や道広域生活交通路線である「芦旭線」、JRと空知交通(株)が運行する市内バス路線の接続がスムーズになったことから、利用者の利便性向上と乗客確保につながった。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 目標値4.0人/1運行当たりに対し4.1人/1運行当たりで目標を達成した。車両減価償却費等国庫補助については計画どおりの運行ができた。(以下の路線も同様)	利用状況に応じたダイヤの見直しを進め運行の効率化を図る。 そのために、芦別市地域公共交通会議の部会である芦別市地域公共交通検討委員会においてダイヤ見直しの検討を進めるとともに、利用促進に向けた市広報紙による啓発活動を行う。
	上芦別線 ③ 芦別駅前～南1条東1丁目～さつき団地(国道経由) ④ 芦別駅前～市立病院～さつき団地(市立病院経由) 【車両減価償却費等国庫補助】		A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値8.5人/1運行当たりに対し8.1人/1運行当たりで目標を達成できなかった。主な要因は市立病院経由において、外来患者の減少に伴い、通院利用者が減少したことによるものである。	
	頼城線 ⑤ 芦別駅前～南1条東1丁目～頼城(国道経由) ⑥ 芦別駅前～市立病院～頼城(市立病院経由) 【車両減価償却費等国庫補助】		A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値10.5人/1運行当たりに対し9.8人/1運行当たりで目標を達成できなかった。主な要因は市立病院経由において、外来患者の減少に伴い、通院利用者が減少したことによるものである。	
	芦別温泉線 ⑦ 芦別駅前～市立病院～芦別温泉 【車両減価償却費等国庫補助】		A 計画どおり事業は適切に実施された。	C 目標値11.4人/1運行当たりに対し9.4人/1運行当たりで目標を達成できなかった。主な要因は、昨年8月21日から12月中までの芦別温泉改修工事により施設利用ができなかったことによるものである。	

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月17日

協議会名:	芦別市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【地域内フィーダー】</p> <p>芦別市は、北海道のほぼ中央に位置しており、東西に24.96km、南北に48.65km、面積は865.04km²と広大な土地を有している。市内にはJR根室本線が通っているほか、国道38号と国道452号の2路線と11本の道道があり、札幌市まで約110km、旭川市まで約40kmの地点に立地している。人口は令和元年10月末日現在で13,254人、そのうち65歳以上人口は6,166人で高齢化率は46.5%となっている。</p> <p>当市は、人口の減少及び高齢化の急速な進展といった社会的問題、また、広大な行政区域に集落が点在するといった地理的問題を有しており、こうした中、市内バス路線を運行していた事業者が、平成19年度末ですべての路線を廃止し、その後を地元交通事業者である空知交通(株)がキラキラバスとして路線を引き継ぎ運行してきた。</p> <p>しかしながら、利用者の減少に歯止めがかからず、減便による運行コストの削減を図るものの、運行収支の悪化による市及び事業者の負担が年々増加し、通院、通勤、通学、買い物など市民生活の足となる路線の維持確保が危うい状況となってきた。</p> <p>このため、平成23年度に実施した市民アンケート調査及び平成24年度に実施した「地域公共交通調査事業」の結果をもとに、「地域公共交通確保維持事業」により、市及び事業者の負担の軽減と、高齢者等の交通弱者の通院や買物など生活の足を確保し、地域の実情に適した持続可能な公共交通体系を構築することを目的として、4路線の循環バス及び将来的な乗合タクシーの運行も視野に入れた中で本計画を策定したところである。平成23年度に実施した市民アンケート調査では、市内路線バスと地域間幹線系統バス及びJRとの接続への配慮や、バス待合所の確保、循環バスや乗合タクシーの運行を希望する意見が多くあった。</p> <p>当市には、旭川市、砂川市、滝川市など他市へ通院する高齢者も多いことから、JR及び地域間幹線系統(滝芦線、芦旭線)との接続に配慮しながら平成28年10月に大幅な系統数や便数の見直しを行った。令和元年12月には、芦別駅を中心とした芦別駅前広場整備事業が終了し、地域公共交通のハブ化がなされ、沿線自治体を結ぶバスの乗り入れが開始された。</p> <p>今後さらに高齢化が進展する中で、市民生活の足として、市内路線バスが、地域間幹線系統及びJRと接続できたことから、これらの公共交通形態を維持することで生活交通ネットワークの構築を進めているところである。</p> <p>【車両取得】</p> <p>平日、一度に4台の車両が運行する時間帯があり、予備車を含め5台体制にしなければならないことから、平成26年度に車両の取得を行った。</p>